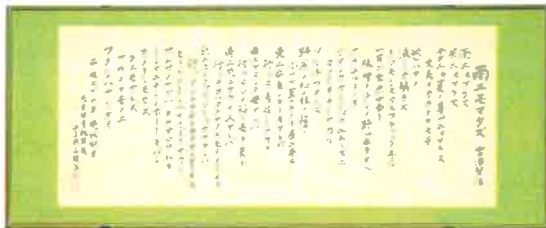


北野 讓治

こころの玉手箱

「北野君はこの詩が好きなのかね。もし、この詩の本質を理解しているなら大したものだ」。金剛寺の名物和尚（執事長）として17年もの長きにわたって親しまれた京都の名僧、江上泰山師が顔をほころばせた。大好きな宮沢賢治の詩



「雨ニモマケズ」を泰山師に頼み揮毫してもらった。約半年の準備期間を経て制作された、こん身の大作だ。縦1尺、横2尺の大きな額をオフィスの会議室に飾っている。重量が20kgを超え、大工さんをお願いして壁に取り付けてもらった。以来ずっと、堂々としたたたずまいを誇る。

江上師は目こぼれでして書くことのないカタカナの練習に始まり、漢字とカタカナの大きさやバランスまで計算されており、全体が風景画のようだ。額装に仕上げるまでに表具屋さんと幾度にもわたって検討を重ねてくださったと聞く。

泰山師は「『雨ニモマケズ』は、大乘仏教に基づく世界観を兎事に詩で表現した作品だ」とおっしゃる。「アラルコトラ シェンヨカンジョウニ入レズニヨクミキシンワカリ……」とある。自分というものがなく「無私」というものがある。

約半年の準備期間を経て制作された大作だ

江上泰山・元金閣寺執事長の書

「雨ニモマケズ」の先にあるもの

「利他」というもの、精神だ。泰山師は「書きながら、改めて賢治の言葉が胸にしみた。君のおかげでとてもいい勉強になった」と語っていらした。

僕らの仕事は企業の足腰に相当するインターネットインフラ上の通信サービスだ。現場の業務にガッチリと組み込まれ、万が一、通信トラブルが起きると、受発注データが届かなかったり、新車の設計データを受け取れなかったりなど、お客様のビジネスを止めてしまふことになりかねない。

24時間365日、一瞬たりとも、サービスを止めぬよう品質管理を徹底し、お客様の業務を支援し続ける。たったそれだけが、毎日の大切な仕事だ。お客様に十分な満足を提供できれば、もしかしたらその先に、当社の本当の成功が訪れるのかもしれない。

米道はサントリースピリッツ名譽チーフレンターの奥水精一氏です。